

第2学年2組 道徳科学習指導案

日時：令和5年5月29日（月） 第5校時

場所：2年2組教室

授業テーマ	家庭との連携を通して生命の大切さを多面的、多角的にとらえ、日常生活と結びつけることで、生きる喜びを感じ、自分の命を大切にしようとする心情を育てる授業。
-------	---

1. 主題名・教材名 いのちの たんじょう (D-17) 生命の尊さ「おとうとの たんじょう」
2. 主題のねらい 自分の命は家族の願いを受けて生まれてきたことや、自分には生きる力があることが分かり、自分の命を大切にしようとする。

3. 主題設定の理由

本指導内容は、「生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること」である。低学年は、生命の尊さを知的に理解するというより、日々の生活の経験の中で生きていることのすばらしさを感じ取ることが中心となる。児童は、自分の命が大切なものであり、大事に守らなくてはいけないことを知ってはいるが、生きていることが当たり前のように感じている傾向がある。そのため、毎日を元気に過ごせることや友達と仲良く遊べることなど、いつものことがいつもと同じようにできることが実は素敵なことであり、「生きている証」であることに気付かせていく必要がある。

本学級の児童は、1年生から持ち上がりの学級として、さまざまな行事や学習に友達と取り組み、楽しく学校生活を送っている。1学年では、学級でいいこと貯金に取り組み、親切や思いやりのある行動を積極的に実践しようとする姿がたくさん見られるようになってきた。その一方で、友達とけんかをすると、心ない言葉を発してしまったり、暴力的な行動が見られたりする。子どもたちは、命が大切であることは分かっているが、それは病気になったり事故にあっけがをしたりすると大変だからという程度の認識である。自分の命を誰よりもいつくしみ、大切に思ってくれている家族や、周りの人の存在に気付いてはいない。自分一人が大切にしている命ではなく、誰かの願いがあっけその命であること、その思いに気付いて自分の命を大切にしようとする心情を育てていきたい。

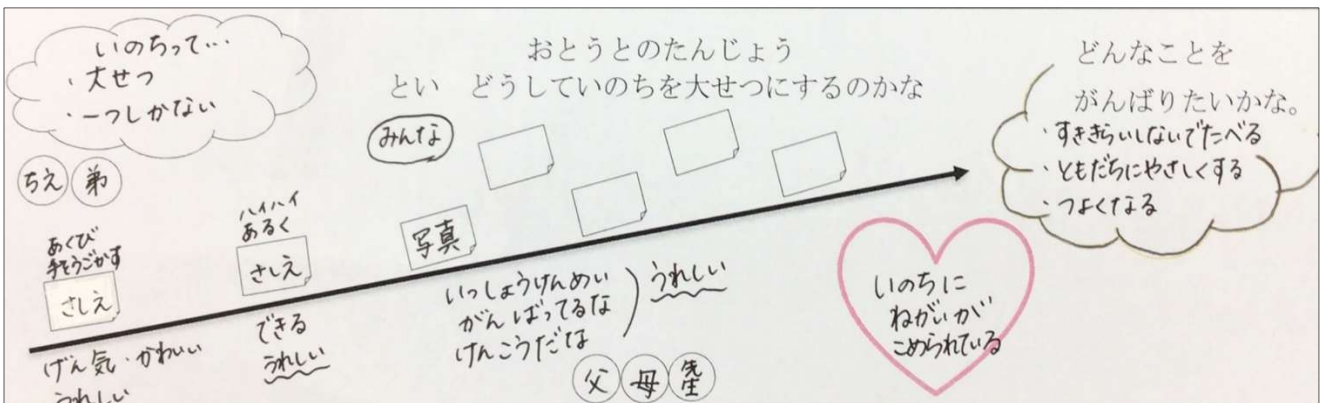
本教材は、主人公ちえの家に男の子の赤ちゃんが生まれ、その赤ちゃんに家族がどのような温かい心で接しているかを紹介した話である。ちえは、弟の名前に込められた親の思いを知り、赤ちゃんがあくびをしたり手足を動かしたりするしぐさに「生きているサイン」を感じる。そして、それを嬉しそうに見つめる親のまなざしから、親の愛を感じるのである。それはまた、自分の名前に込められた願いや、自分も「生きているサイン」を出してきたこと、それが家族に喜びを与えてきたことを自覚するきっかけとなる。関連する内容項目として、父母など保護者がどのような気持ちで自分を育ててくれたかを知ること、親愛の情や敬愛の念を生み、家族の役に立とうという家族愛へとつながっていく。低学年という発達段階において、家族愛を通して自己の生命の尊さを自覚するのに適した教材である。

指導にあたっては、生命の尊さを自他との関わりの中で理解させていきたい。また、日常の写真や家族からの手紙などから、自分の命を大切に思い、守ってくれる人がいることにも気付かせたい。自分の命がかけがえのないものであるということを知らせ、大切にしていこうとする実践意欲を育てていくことで、児童が道徳的価値を自分事として考えることができるようにする。

4. 指導計画

- (1) 事前指導…「いのち」から思い浮かぶ言葉をあつめることで、意識付けを図っておく。
- (2) 本時…教材をもとに、「生命の尊さ」の道徳的価値の大切さについて考え、多角的に理解する。
- (3) 事後指導…家族に手紙を渡し、自己の生き方について道徳的実践意欲と態度を育む。

5. 板書計画



◇ 授業の実際 ◇

段階	学習内容・活動	時間	◎教師の発問 ○児童の反応
気 付 く	<p>1 いのちとは何かを考え、本時の問いをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>と い どうしていのちを大切にするのかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対に大切 ・一つしかない ・なくなったらかなしい 	5	<p>・ロイロノートで児童の「いのちって」に続く言葉を振り返る。</p> <p>◎大事、大切と書いた人はいるかな。</p> <p>○命がなかったら、人間は生きていけないよ</p> <p>◎命って、絶対に大事なのかな。</p> <p>○大事、なかったら死んじゃうから</p> <p>◎では、どうして命を大切にするのかな。</p>
見 つ め る 伝 え 合 う	<p>2 「おとうとのたんじょう」を読み話し合う。</p> <p>(1) お父さんとお母さんの、健太さんへの心情について考える。</p> <p>(2) 「生きてるサイン」が、どうしてうれしいのかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎健太くんが「あくびをすること」「手足を動かすこと」は、どうしてうれしいのかな。</p> </div> <p>(3) 「生きているサイン」を自分に置き換えて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読む、書く、食べる など ・当たり前のことが生きているサイン <p>(4) 家族からの手紙を読んで、思ったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしい ・自分も大切にしてもらっていたんだな 	25 (5) (10) (5) (5)	<p>◎お父さんやお母さんは、健太君のことをどう思っているかな。</p> <p>○生まれてうれしい</p> <p>○かわいいな</p> <p>○産んでよかったな</p> <p>○大きくなるのが楽しみだな</p> <p>(10) ◎健太くんが「あくびをすること」「手足を動かすこと」は、どうしてうれしいのかな。</p> <p>○初めてしゃべったから</p> <p>○成長したからうれしい</p> <p>○生きているサインだから</p> <p>(5) ◎みんなの生きているサインには、どんなことがあるかな。</p> <p>○しゃべること</p> <p>○体が動くこと</p> <p>○勉強すること</p> <p>○食べること</p> <p>(5) ◎みんなの生きているサインを、お父さんやお母さんはどう思っているかな。</p> <p>○すごいな</p> <p>○がんばっているな</p> <p>○うれしいな</p> <p>◎お手紙をもらって、どんな気持ちだったかな。</p> <p>○うれしかった</p> <p>○「元気に生まれてくれてありがとう」って書いてあった</p>
振 り 返 る	<p>3 ワークシートにより、生命や生きる力について自分の生活を振り返り、これからの生活に生かせることを考える。</p> <p>(1) 家族への手紙の返事を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切に育ててくれて、ありがとう ・名前の意味は知らなかった ・勉強をがんばる ・みんなにやさしくする ・たくさん食べて元気にすごす 	15	<p>◎もう一度問いに戻ります。みんなは、どうして命を大切にするのかな。</p> <p>○ママとパパが心配するから</p> <p>○がんばれって気持ちが込められているから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙への返事を書く。 <p>◎いのちを大切にするために、どんなことを頑張ったらいかな。</p> <p>○ルールを守る</p> <p>○ご飯をたくさん食べる</p> <p>○右左をきちんと見る</p> <p>◎お返事には、どんなことを書いたらいいかな。</p> <p>○ありがとうの気持ち</p> <p>○がんばること</p>

第4学年道徳科学習指導案

日時: 令和5年6月19日(月) 第5校時

場所: 4年2組教室

授業テーマ	話し合い活動を通して、生命の大切さを多角的にとらえ、自己の生き方を見つめ、命を大切にしようとする心情を育てる授業。
-------	---

- 1, 主題名・教材名 みんなの命 (D-18生命の尊さ)「せいいっぱい生きる」
- 2, 主題のねらい 生命は唯一無二であることや、与えられた生命を一生懸命、生きることの素晴らしさに気付き、自分の命を大切にしようとする。(本時のねらい)
- 3, 主題設定の理由

自分の生命を大切にするためには、自分の生命がたった一つしかない、かけがえのないものであることを感じさせることが大切である。「命は大切である」と言葉にする児童は多いが、どうして大切なのか考え、生きていることの喜びや素晴らしさに気付いている児童は多くないと感じる。それに加え、世の中では、中学生の自殺が増加している現実から、命が軽んじられているように感じる。このような現状から命の有限性や唯一性を考えさせたり、生きることの素晴らしさを考えさせたりすることで、自分の命をせいいっぱい生きていこうとする態度や心情を育てる。

本学級の児童は友だちと話したり、助け合ったりする様子が見られる。アンケートでは、約3分の1の児童が死について考えたことがあると回答し、命には限りがあることに気付いている児童もいる。「せいいっぱい生きていくか」という質問には、96%の児童が「はい」と回答しているが、「せいいっぱい生きるとはどのようなことか」という質問には「わからない」と答える児童もいた。

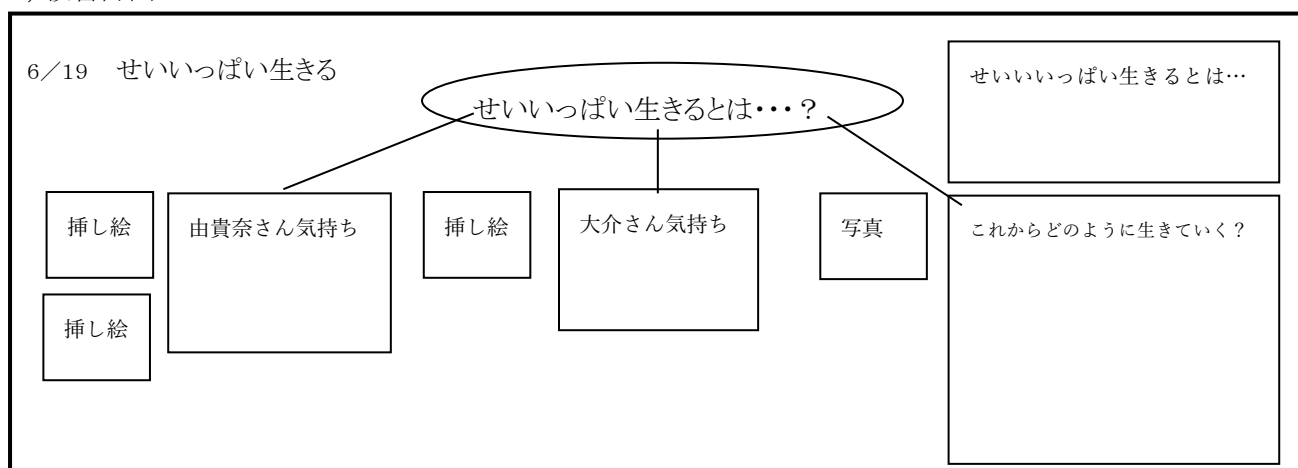
本教材は、5年半に及ぶ闘病生活の末、11歳で亡くなってしまった宮越由貴奈さんが、小学4年生のときに書いた詩と、由貴奈さんと院内学級で一緒に過ごしたことがある宮田大介さんの人生について書かれたものである。将来を楽しみに、たくさんの夢を抱いて生きている中で、自分から命を捨てる人への悲しみとともに、最後まで諦めずに生きようとする、由貴奈さんの思いは、児童の心にも響く教材となっている。

指導にあたっては、由貴奈さんの詩に書かれている「電池はすぐに取りかえられる」や「命をむだにする人がいる」という言葉から、命の唯一性や有限性に気付かせていく。また、病を乗り越え、由貴奈さんの詩や生き方から、命の考え方が変わった大介さんについて考えさせることで、命自分の生き方を見つめ、せいいっぱい生きることの大切さや素晴らしさに迫りたい。終末では、由貴奈さんや家族の思いから自分の生き方について多角的に見つめ、考え、発表させることで、命があることの有り難さを感じ取らせられるようにし、今後の生活でも意識できるようにしたい。

4, 指導計画

- (1) 事前指導…事前に生命についてアンケートを実施し、本時の意欲を高めさせる。
- (2) 本時…教材をもとに、「生命の尊さ」の道徳的価値の大切さについて、多角的に考え、理解する。
- (3) 事後指導…日々の生活において、道徳的実践意欲と態度を育む。

5, 板書計画



6. 授業テーマに迫るための視点

(1) 主題を多面的・多角的なものの方でとらえさせる話し合い活動の工夫 (視点1)

(2) 価値の深まりや意欲の継続、自己肯定感を高めるための「振り返り活動」の設定 (視点2)

7. 学習過程

段階	学習内容・活動	時間	○指導上の留意点 ※視点 ◆評価
気 付 く	1. 「もてなすとは、何だろう」について話し合い、本時の問いを知る。 ・親切にすること。 ・相手を思いやること。 →今までとは、変わらないのかな。 →本当に親切・思いやり＝「おもてなし」？	7	○事前にロイロノートによるアンケート「①おもてなしという言葉を知っているか」「②おもてなしとは何か」を実施する。 ○アンケート結果をグラフで提示し、事前の意見が「おもてなし」の全てではないことを押さえ、本時の問いにつなげる。 ※学級の意見を可視化することで、本時の主題を多面的・多角的なものの方でとらえさせる。(視点1)
	問い 「もてなす心」とは、どんな心だろう。		
見 つ め る	2. 資料「お茶の心」を読み、もてなす心よさについて考える。 (1) お茶のおもてなしにはどのようなものがあったかについて考える。 ・亭主も客も、相手にお茶碗を向けていた。 ・季節によって、茶碗が変わる。 ・細かい心づかいや相手への思いやりがある。 ・相手がその場にいなくても、考えている。 ・一期一会の出会いを大切にしている。 (2) 主人公が温かな気持ちになった理由を考える。	7	○資料を読む際に「お茶の心には、どのようなおもてなしがあるか見つけよう」と視点を提示する。 ○もてなす心に着目し、作法(行為)と思い(心情)に分けて板書をまとめる。 ○おもてなしは、「相手がその場にいなくても、相手を思いやっている」ということを押さえる。
	◎「わたし」がほんわかと温かい気持ちになったのは、なぜでしょう。 ・亭主(祖母)のもてなす心が通じたから。 ・細かい心づかいに気付いたから。 ・出会いを大切にすることが伝わったから。	10	◆ 茶道のような日本の伝統文化の中にある「もてなす心」のよさが分かったか。(発言・ワークシート) ○おもてなしをされたことで、誰もが「もてなす心」に気付けるわけではない、ということを押さえる。
伝 え 合 う	3. 「お茶の心」以外に、日本にはどのようなおもてなしの文化があるのかを考える。 (1) 茶道以外に、身の回りにどのようなおもてなしがあるかについて考える。 ・客人に対して礼儀正しくすること。 ・お茶を出したり、一緒にご飯を食べたりすること。 ・お店に行ったときの、いらっしゃいませ、ありがとうございました等のあいさつ。 (2) 今の暮らしの中に「もてなす心」が息づいているのはなぜかを考える。 ・「おもてなし」はよいことだから。 ・よいことを大切に残していきたいから。	8	※班での話し合い活動を行わせ、出し合った意見をタブレットで記録させる。集約した意見を電子黒板に提示し、全体で共有する。(視点1) ○意見が出にくい班には、写真を配り、写真の中にあるおもてなしを見つけさせる。
		3	○「もてなす心」は、古くから受け継がれてきた日本のよさだということを押さえる。
振 り 返 る	4. 「もてなす心」について振り返る。 (1) 本時の学習の流れを全体で確認する。	2	○本時の問い、「もてなす心」とはどんな心か、もてなす心が古くから受け継がれてきた日本のよさであることについて、全体で確認する。
	(2) 本時の学びから、「もてなす心」を生活の中にどのように活かしていきたいかを考える。	5	※生活に活かす手立てを考えることを通して、実践意欲、自己肯定感を高めることにつなげる。(視点2) ◆ 茶道のような日本の伝統文化に関心をもち、大切に受け継いでいこうとしているか。(発言・ワークシート)
	5. ゲストティーチャーによる説話	3	○ALTによる、海外から見た日本のおもてなし文化のよさや、日本と海外の違いについての説話をし、今後の実践意欲と態度を高めさせる。

第5学年 道徳科学習指導案

日時: 令和5年10月30日(月) 第5校時
場所: 5年2組教室

授業テーマ	主題を多角的に捉え直すことで、郷土の伝統や文化を守り、受け継いでいこうとする道徳的心情を育てることができる授業
-------	---

1 主題名・教材名 ふるさとのほこり (C-17伝統と文化の尊重) 「ふるさとのほこり 広島カープ」

2 主題のねらい

◎ わが国や郷土の伝統や文化を守り、受け継いでいこうとする。

3 主題設定の理由

自分の住む町や地域のよさや特徴の中には、先人が作り上げたものや守ってきたものがある。それを知ることは、自分たちの町や地域に愛着をもつことにつながる。さらに、わが国や郷土にはさまざまな伝統や文化があり、それらを深く知ることで、現在の自分や生活との関わりを理解し、守り受け継いでいこうという心構えが生じるのである。

5年2組の子どもたちは、これまでも主に社会科の学習において、地域の伝統文化をはじめ、わが国の国土や産業についての学習を進めている。これらの学習から、我が国や郷土の歴史や、発展に貢献した人物などについて考えを広げていく中で、先人の努力や思いに目を向けられるようになってきている。

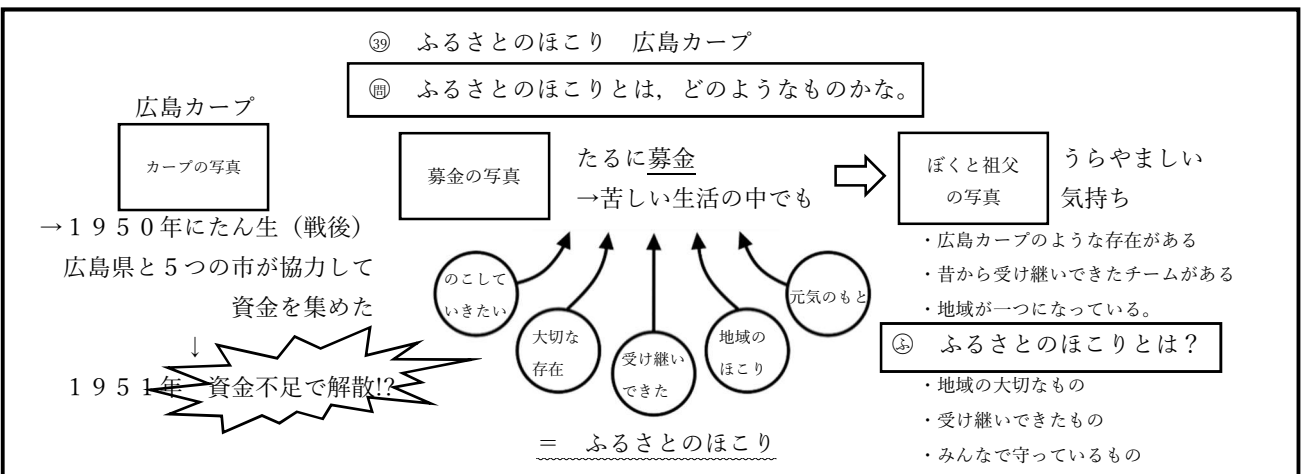
本教材は、第二次世界大戦後、資金不足で解散の危機にあったプロ野球球団「広島カープ」を救った市民の姿や思いを描いた教材である。原子爆弾が落とされた広島の人たちにとって、「広島カープ」は復興の象徴であった。生活の支えであり、生きる希望でもあった。広島の人たちの広島カープへの思いを学習することを通して、郷土にある自分たちが大切にしたいものについて考えを広げ、それがなぜ大切なのかを考えさせることができる教材である。

私たちが普段何げなく目にしている地域の伝統や文化は、地域の人たちによって支えられ、誇りとなっている。指導にあたっては、グループ活動を効果的に設定し、その地域の人たちのさまざまな思いについて多面的・多角的に考えさせたい。また、事前アンケートを活用し、自分の地域の誇りとなるものやことを見つめ直し、大切にしたいという思いが広がるようにしていきたい。

4 指導計画

- (1) 事前指導…事前に地域の「自慢できるもの」についてアンケートを実施し、本時の意欲を高めさせる。
- (2) 本時…教材をもとに、「ふるさとのほこり」の道徳的価値の大切さについて、多角的に考え、理解する。
- (3) 事後指導…日々の生活において、道徳的実践意欲と態度を育む。

5 板書計画



6 授業テーマに迫るための視点

- (1) ふるさとの伝統や文化について、多面的・多角的に考えさせるためのグループ活動の設定（視点1）
- (2) 自分達の住む地域の誇りについて考えを深めるための振り返り活動の工夫（視点2）

7 指導過程

	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ※視点 ◆評価
気 付 く	<p>1. 自分達の地域の自慢について考え、本時の問いを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野馬追い ・手踊り ・地域のお祭り ・自然豊か ・漁業が盛ん ・優しい人が多い <p>問 「ふるさとのほこり」とは、どのようなものなのか。</p>	5	<p>○ロイロノートで事前に地域の自慢は何かを問うアンケートを取る。授業の導入にて、電子黒板でアンケートの結果を見せ、交流する。また、それが自慢だと思った理由を問うことで、本時の問いを捉えさせ、学習の見通しを持たせる。ただし理由について深く追求するのは、教材を読み終えた振り返りの段階とする。</p>
見 つ め る ・ 伝 え 合 う	<p>2. 教材文を読み、地域の誇りについて話し合う。</p> <p>(1) 広島の人達が、生活を切りつめてまで募金をした理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切な存在だから。 ・広島カープは、「元気のもと」だったから。 ・なくなってほしくないから。 ・戦後の広島の希望だったから。 ・カープをいつまでも応援したいと思ったから。 ・地域のほこりだから。 <p>(2) 「ぼく」の広島の人達への思いを考える。</p> <p>◎「ぼく」が広島の人達をうらやましく思ったのはどうしてかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔から応援しているチームがあるから。 ・広島の人とカープが支え合っているから。 ・地域の人たちが一つになってチームを応援しているから。 ・広島の人々の心が一つになっているから。 ・自分の地域はカープのような存在がないから。 	<p>25 (15)</p> <p>(10)</p>	<p>○教材文を読む前に、広島カープに関する話であることを知らせ、広島カープと広島県民の結びつきを考えながら聞くよう伝える。</p> <p>○教材を読みながら都度内容を確認し板書する。</p> <p>○考えが浮かばない子には、解散のニュースを聞いた広島の人たちの思いや、石本監督の言葉の意味を補助的に問い、考えさせる。</p> <p>○広島カープが戦後から地域の誇りとして県民に応援されてきたことを捉えさせる。</p> <p>○「ぼく」の気持ちに共感できるかを補助的に問い、考えさせる。</p> <p>○グループで意見を交流させることで、登場人物の気持ちの理由について多角的に考えられるようにする。</p> <p>※ふるさとの伝統や文化について、多面的・多角的に考えさせるために、グループ活動を設定する。</p> <p>◆地域で大切にしているものが、地域の人たちに守られていることが分かり、その思いに共感できたか。【発言・ワークシート】</p>
振 り 返 る	<p>3. 本時の学習の振り返りを行う。</p> <p>(1) 板書を手がかりに、本時の学習を確認する。</p> <p>(2) 自分達の地域の誇り（大切にしたいもの）について、誇りだと言える理由をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野馬追い……伝統ある行事だから。 昔から受けついでいるから。 ・漁業……地域の大切な産業だから。 ・お祭り……昔から続いているものだから。 <p>(3) ゲストティーチャーの説話を聞く。</p> <p>(4) 本時の学習の振り返りを書く。</p>	<p>15 (2)</p> <p>(5)</p> <p>(4)</p> <p>(4)</p>	<p>○授業冒頭で提示した、地域の誇りに関するロイロノートを改めて提示し、広島県民にとっての広島カープと比較することで、それらもまた大切にしていきたいものであることを確認する。</p> <p>※自分達の住む地域の誇りについて考えを深めるために、振り返り活動を工夫する。（視点2）</p> <p>◆地域で大切にされているものの理由を考え、大切にしようとする思いをもつことができたか。【ワークシート】</p>

第3学年2組 道徳科学習指導案

日時：令和5年11月27日（月）5校時
場所：3年2組教室

授業テーマ	自分の生命と他の生命のつながりについて、食事のあいさつを例に多面的・多角的に考え、話し合うことで、生命を大切に生きていこうという心情を育む授業
-------	---

1 主題名・教材名 元気のもと（D 生命の尊さ） 「いただきます」

2 主題のねらい

◎ 自分の生命と他の生命とのつながりが分かり、生命を大切に生きていこうとする。

3 主題設定の理由

本クラスの児童は給食の時間を毎日楽しみにしており、「今日の献立は何か」「この食材あまくて好き」などと話す姿が多く見られる。元気のよい「いただきます」というあいさつをし、作ってくれた人への感謝の気持ちを持ちながら食事を楽しんでいるが、自分の生命と他の生命とのつながりを自覚してあいさつをしている児童はほとんどいない。

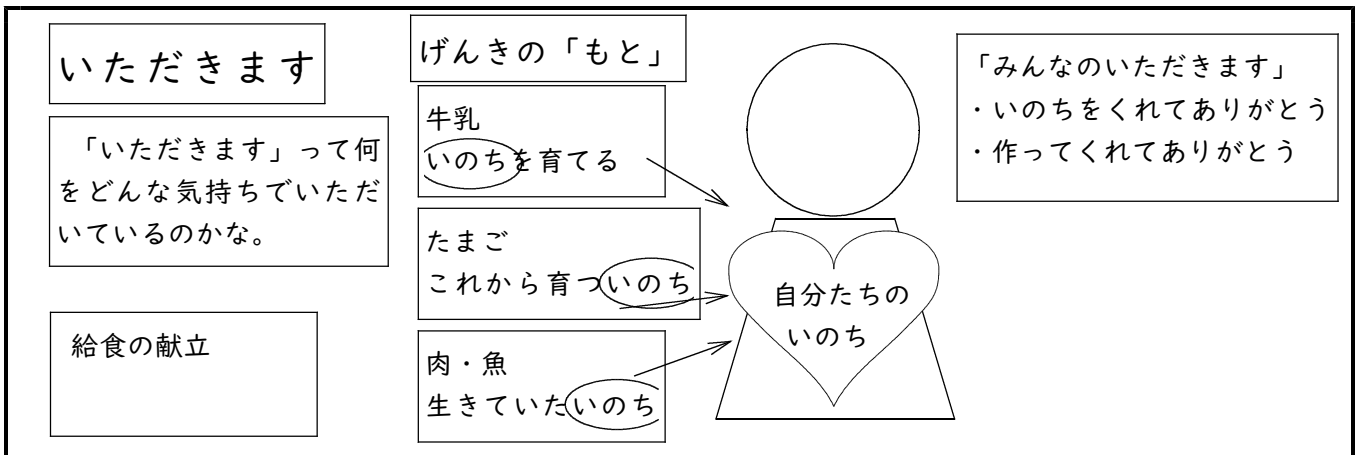
本教材は、日々使う身近なあいさつ「いただきます」をもとに、その言葉の意味を考えていく。区切りやお礼・感謝だけでなく、自分の生命へつながる他の生命との関わりを理解することで、「いただきます」のより深い意味に気づくことができる。この教材を通し考えることで、自分の生命をそのつながりという観点で見つめ直し、ありがたさを自覚すればするほど、生命を大切にしたい、という意欲を高めることができるだろう。

毎日何気なく言葉にしている「いただきます」について、改めて考え話し合うことで、今、自分の生命は、多くの生命の上に成り立ち、多くの人々との関わりの中で生きることができている、という生命の関係性を学ばせていきたい。また、これまで、これからも幾度となく言う「いただきます」の意味や食事の中にある多くの生命について学ぶことで、他の生命への感謝の思いをもたせることも大切にしていきたい。

4 指導計画

- (1) 事前指導… 給食の時間や教科の学習、食育を通して、食に対する興味・関心を高める。
- (2) 本時… 生命のつながりを理解し、自分の生命について多面的に考える。
- (3) 事後指導… 日々の生活において、道徳的実践意欲と態度を育む。

5 板書計画



6 授業テーマに迫るための視点

(1) 「いただきます」を共有、考えを深めさせるためのペア活動の設定 (視点1)

(2) 自分の生命について見つめ直し、価値の深まりや意欲を高めるための振り返り活動の工夫 (視点2)

7 学習過程

	学習活動・内容	時間	指導上の留意点 ※視点 ◆評価
気づく	<p>1 給食の献立を見て、本時の問いを捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理、食材の確認をする。 ・食事の前に言う言葉を全員で言う。 ・「いただきます」は何をいただいているのか考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 「いただきます」って何をどんな気持ちでいただいているのかな。 </div>	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調理される前の姿を出すことで、何をいただいているのか、イメージしやすくする。 ○ 全員で言うことで、学習への参加、本時の課題を捉えさせる。 ○ 「いただく」とは「もらう」という言葉をより丁寧に表現した言葉だと伝え、何をもらっているのか問うことで、めあてをつかませる。
見つける	<p>2 教材を読み、自分の命と他の命との関わりについて話し合う。 (個人→全体)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○私たちの「元気」を支えてくれている「もと」は何だろう。 </div> <p>→牛からは、赤ちゃんを育てるためのミルクをもらっているね。 →卵からはひよこが生まれてニワトリになっていくよ。 →肉や魚は、生きているものを調理して料理になっているよ。 →他の生き物の命をいただいているんだね。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を読む際に「自分たちの元気のもとは何か」という視点を提示する。 ○ 食べることに着目させ、牛乳や卵、肉、魚といった具体例を出しながら問い返していく。 ○ 牛乳は「命を育てるためのもの」、卵は「これから育つ命」、肉や魚は「今生きている命」をそれぞれいただいていることに気づかせる。
伝え合う	<p>3 「いただきます」の意味について考える。(個人→ペア→全体)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◎「いただきます」をどんな気持ちを込めて言っているかな。 </div> <p>→私たちのために生命をくれてありがとう。 →作ってくれた人だけでなく、食べ物にもありがとう。</p>	15	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「込められた思いは1つですか」と補助発問をし、たくさんの思いがあることを考えさせる。 ※ それぞれが思う「いただきます」を共有し、考えを深める。(視点1) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◆「いただきます」の言葉に込められた「生命をいただく」という思いに気づくことができたか。(ワークシート) </div>
振り返る	<p>4 本時の学習を振り返り、命についての考えをまとめる。</p> <p>(1) 板書をもとに、本時の学習を振り返る。</p> <p>(2) 自分の生命について見つめ直しワークシートに生命について考えたことを記入・発表する。</p> <p>(3) 今日の給食のこんだてに戻り、どんな生命(食材)があったか確認する。</p>	14	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の内容を振り返り、自分の生命は、他の生命をいただいているのだと確認し、生命はつながっているのだと気づかせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◆自分の生命は他のたくさんの生命のおかげで成り立っている大切なものであると考えることができたか。(ワークシート) </div> <p>※ イメージを具現化し、いただく生命に親しみをもてるようにする。(視点2)</p>
	5 説話		

第1学年2組 道徳科学習指導案

日時 令和5年12月15日(金) 第2校時

場所 教室

授業テーマ	登場人物の心情と行動について話し合うことを通して、他者の命を必死で助けようとする生き方によさを感じ、自分も自他の命を大切にしようとする心情を育てる授業。
-------	--

1. 主題名・教材名 たすけずには いられない ころ (D-17 生命の尊さ)「わきだした みず」
2. 主題のねらい 命を助けようと努力する人の生き方によさを感じ、自分も自他の命を大切にしていこうとする。

3. 主題設定の理由

命が大切であるということは明白である。人間には、人が苦しんでいたり、危ない目にあったり、けがをしたりして命の危険に瀕していると、思わず何とかしようとする素晴らしい心を持っている。それは、自分の命が大切だと思い、それと同じくらい大切な命を相手も持っていると思うからである。自分の命の大切さが分かれば分かるほど、相手の命も大切にしようという気持ちがわいてくる。生命尊重の精神は、人間関係構築の基礎となるものである。

本学級の児童は、さまざまな行事や学習に友達と取り組み、楽しく学校生活を送っている。友達がけがをしたり、困っていたりした時に、声を掛けて手当をしたり一緒に行動してあげたりできる児童が多い。しかし、現段階で、危険な状況に置かれた命に出合う経験をしたことがほとんどない。そのため、命が危ないと分かった時に助けずにはいられないという心が自分にもあることをまだ自覚できていない。当たり前前の生活が送れたり、自分が成長できたりできるのは、命があるからだということに気付くことで生命の大切さを自覚し、他者の命も尊重したいと願う心も高められる。日々の見過ごしがちな行為の中から生きていくことのすばらしさ感じ取ることができるようにしていくことが必要である。

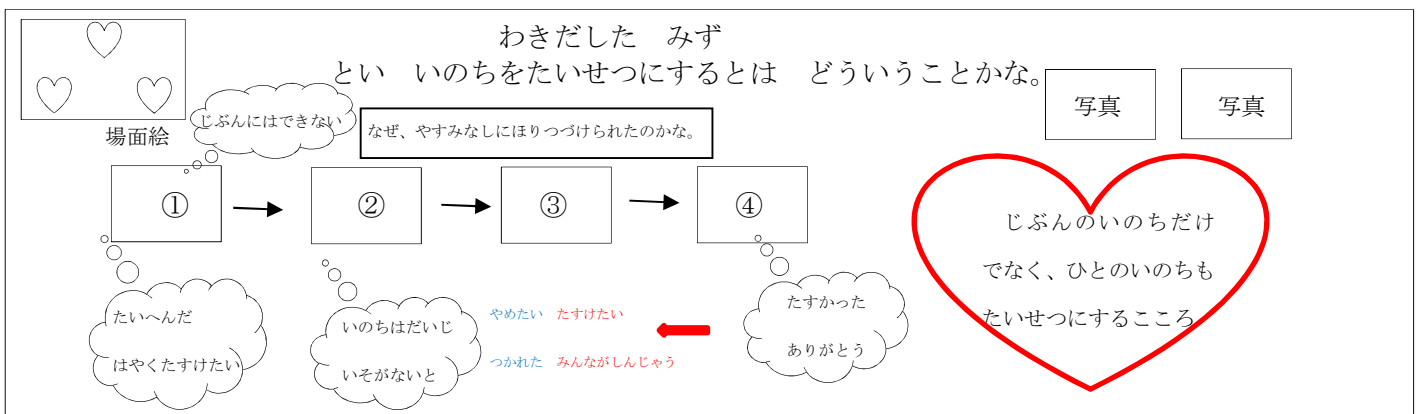
本教材は、池の水が干上がってしまい、魚たちが苦しんでいる様子を見たカニは、隣の村の泉まで穴を掘り進めることを決める。途中、大きな石にぶつかる。そのときに、魚たちが苦しんでいる様子を思い出し、一層力を入れて、昼夜間わず掘り続け、泉まで掘り通し、水が池まで流れ出すという内容である。必死に、穴を掘り進めるカニの姿から、何としても魚たちの命を助けたいという強い心が見える。水が流れ出て、喜ぶカニの姿から他者の命も自分の命同様に大切にできる素晴らしさを感じ取ることができる教材である。

指導にあたっては、カニは、大きな石を迂回し、昼夜間わず掘り進んだかを動作化し話し合うことによって、自分も自他の命を大切にしようとする心を育みたい。そのために、板書では、矢印や吹き出しを使って登場人物の心情を視覚的に読み取れるようにする。それによって、カニの命の危険を見過ごすことができないという心を明らかにすることができる。また、救われた魚の気持ちを取り上げることで、多面的に考え、命を大切に人のよさを浮かび上がらせることができるようにする。終末の振り返りでは、命を大切にしようとする自分を振り返ったり、これからに生かせることを考えさせていきたい。

4. 指導計画

- (1) 事前指導…命について思い浮かぶ言葉をあつめることで、意識付けを図っておく。
- (2) 本 時…教材をもとに、「生命の尊さ」の道徳的価値の大切さについて考え、多角的に理解する。
- (3) 事後指導…自分たちの身に回りにある命を守るための取り組みについて紹介し、日々の道徳的実践意欲と態度を育む。

5. 板書計画



6. 授業テーマに迫るための手立て

(1) 動作化したり話し合ったりしたことを通してカニや動物たちの心情について、多様な考えを引き出すことができるようにする。

(視点1)

(2) ワークシートや写真などを活用して、自分事としてとらえさせることができるようにする。

(視点2)

7. 学習過程

段階	学習内容・活動	時間	○指導上の留意点 ※手立て ◆評価
気 付 く	1 いのちとは何かを考え、本時の問いをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> とい いのちをたいせつにするとは どういうことかな。 </div>	5	○事前に、命というテーマから思い浮かぶ言葉を集めておくことで、子どもたちにいのちという言葉の意味や大切さを意識づけることができるようにする。 ○命はなぜ大切なのか、どのように大切にするのかを問うことで、本時の問いにつなげる。
見 つ め る	2 「わきだしたみず」を読み話し合う。 (1)「わきだしたみず」の話を聞き、カニや動物たちの、行動や心情をつかむ。 ・たいへんだ ・なんとかしたい ・たすけないと ・どうしよう (2)なぜこんなに苦しいことができたのかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ◎なぜ、カニは、休みなしにほりつづけることができたのかな。 </div>	30 (10)	○教材文の内容を児童が把握しやすくなるように読みの視点を与え、先行オーガナイザー法を用いる。 ○児童が発言した登場人物の思いや行動を矢印や吹き出しを使って板書に整理することで、話の内容や登場人物の心情をとらえることができるようにする。 ○カニの行動について動作化を取り入れることで、カニについての心情を共感的に理解することができるようにする。(視点1) ○全員に動作化させることで、休みなしに掘り続けることができたカニの気持ちを考えることができる場面を作る。 ○ペープサートを活用し、休みなしに掘り続けることの大変さを捉えさせる。
伝 え 合 う	・ともだちをたすけたい ・1つしかないいのちは、たいせつだから ・みんなでいきたい ・はやくしないと ・まってね (3)水が流れてきたときの魚や動物たちの気持ちを考える。 ・やった ・ありがとう ・よかったね ・たすかった ・いきられる	(10)	◆カニのいのちを助けようとするすがたにころがうごいたか。(発言・ワークシート) ○魚たちの喜びをカニの努力と関連づけさせて捉えさせ、命の危険を見過ごせない心から生まれた行為のよさに気付かせる。
振 り 返 る	3 ワークシートにより、たいせつないのちについて自分の生活を振り返り、これからに生かせることを考える。 ・かわでひとりであそばない ・困っているときに助けてあげる ・きけんなあそびをしない ・ひなんくんれんをがんばる ・きけんなときは、しらせる	8	○日常生活の命を大切にすることにつながる写真を提示することで、教材と子どもの経験をつなぐことができるようにする。また、なかなか振り返ることのできない子どもには、これまでの自分を振り返ることができるようにする。(視点2) ◆自分もじっとしていられない心があることを自覚し、自他の命を大切にしようとしているか。(発言・ワークシート)
	4 教師の説話	2	○震災の時に、みんなで協力し合って、水を運んだり、声を掛け合ったりして生活した説話をし、今後の実践意欲と態度を高めさせる。